

録音図書製作時のチェックポイントから、 録音図書の質について考えてみよう！

京都ライトハウス情報ステーション
松田 裕美

図書の構成、録音技術、音声表現技術、処理技術、デイジー編集技術の5つの項目にわけて製作時の注意事項や最終確認のチェックポイントを見直してみましょう。

1. 図書の構成

(1) 録音すべき項目と順序

① 始めの枠アナウンス

書名（副書名・シリーズ名・巻次・回次・年次）・著者名（編者名・訳者名）

読む順番は？ デイジー図書奥付、原本奥付、書誌情報との統一は？

製作施設・団体名

著作権処理に関する事項

(例) この図書（雑誌）は著作権法第37条第3項に基づいて製作しています。

又貸し、複製等による第三者への提供はできません。

② デイジー図書凡例

階層について

録音図書を使用する上で必要な情報（音訳・編集の処理等）

③ 原本の記載順序に基づいて録音

原本凡例、まえがき、目次、本文、著者略歴、原本奥付など

④ デイジー図書奥付

書名（副書名・シリーズ名・巻次・回次・年次）・製作施設名・製作完了年月

2. 録音技術

(1) 音量・音質

録音のピークは-6 dBから-8 dBくらい
全体に音量のばらつきがなく、同一レベルで録音
音は明瞭か
修正時の前後との音量・音質差

(2) 雑音

操作音、電気ノイズ、ページをめくる音
息継ぎの音、口中音、ポップノイズ
鳥の鳴き声、車の走行音、室外機の音 など

(3) 録音ミス・編集ミス

頭切れ、消し残し
セクション冒頭の無音、フレーズ頭の無音
編集時の消し間違い

3. 音訳技術について

(1) 誤読

助詞（てにをは）、漢字の読み、読みの統一、固有名詞の読み
長音・促音の読み

(2) 発声・発音

不明瞭
読みづまり

(3) スピード

自然な緩急

(4) アクセント

意味が変わってしまう、あるいは、意味が分からなくなるアクセント
書名やその図書の中での重要な語句のアクセント

4. 処理技術

(1) 説明が必要な文字の処理 (同音異義語・造語など)

説明が必要か? 不要か?

説明方法を考える

(2) 活字符号の処理

(3) ルビ・外国語・注・引用文などの処理

①ルビ

初めて出てきた場合、2回目以降にでてきた場合
ルビを先に読む、ルビの付いている語句を先に読む

②外国語

発音のみ、スペルのみ読む、発音+スペル、スペル+発音

③注

音声表現技術のみ、注…注終わりをいれる

④引用文

音声表現技術のみ、以下引用…引用終わりをいれる

(4) 写真、図、表、グラフ等の視覚的資料の処理

その視覚的資料の役割を考える

どの程度説明するか? どこに挿入するか?

必ず文章化する

5. デイジー編集技術

(1) セクション分割・レベル付け

適切な位置でセクション分割されているか？ 適切なレベル付けか？

(2) 見出し入力

誤字脱字

文字・記号類・スペースの不統一

(3) 1フレーズ化

① 書名、著者名（先頭セクションの先頭フレーズ）

② 目次の見出しとページ数

③ 本文各セクションの見出し

④ 索引の見出しとページ数

(4) ページ付け

目次、索引でアナウンスしているページ数との確認

(5) グループ設定

写真や図、表、グラフや参考文献が多い時はグループの設定で検索性を向上

(6) 書誌情報の入力

誤記に注意

(7) マーク・コメントの消し忘れ

編集完了後に全削除のひと工程を

(8) エクスポート時の音声フォーマットの設定